



▲山崎さんを応援する仲間たちが収穫を手伝うために集合



▲特区認定の立役者でもある山崎さん。認定証を持ってパシャリ

山崎さんが市に提案したことからはまった「なすしおばらワイン特区」。特区に認定されたことで、令和3年に収穫したブドウは山崎さんのワイナリーで醸造ができるようになりました。山崎さんは、「特区認定のおかげで新しくワインを造りたい人が増えています。醸造できるまでには時間がかかります。それまでは、手助けをしたいと思います」と語ります。石井さんのブドウも、山崎さんの施設で醸造され、ワインになる予定です。

ワイン特区認定とこれから



▲山崎さんのワイナリーの令和3年産の主力「ツヴァイゲルトレーベ」。本市とゆかりのあるオーストリアの品種

素晴らしいワインに出会えた、その瞬間の鮮烈な記憶がきっかけです。

注目の醸造家

Y's Vineyards



ワイズ・ヴィンヤーズ Y's Vineyards (関谷)

やまぎき かしこ 山崎 賢子 さん

本市出身。海外でワイン造りを学ぶ。ワイナリーで経験を積んでから故郷である本市に戻り、ブドウ農家・醸造家としてスタートを切った。現在は1人で約0.9ヘクタールの農地を管理している。



ワイズ・ヴィンヤーズ 公式ホームページ

いつか自分のワインも 誰かの記憶になってほしい。

自分でワインを造りたい

「飲んだときに『なにこれ?!』という衝撃を受けるワインに出会えたこと。ワインに魅せられたきっかけを、山崎さんはそう話します。高校卒業後に英語を学ぶために日本を離れ、留学先の大学の授業でワインテイスティングをしたことからワインを好きになったそうです。

「卒業後はワインに携わる仕事をするために東京の貿易会社に入社しました。そこで外国のワイン生産者と話をするうちに、自分でも造ってみたいくなって」。その夢を追い、ニュージーランドの大学でブドウ栽培・醸造を学んだ後、ニュージーランド、アメリカ、山梨県のワイナリーで経験を積みました。

その後、北海道や長野県でワイナリーを始めることも考えたという山崎さん。悩んだ末に、右も左も分らない土地ではなく、故郷である本市をワイン造りの地に選びました。酪農家の叔父に機械を借り、5年ほど前から関谷地区にブドウ畑を整備。ブドウ農家として第一歩を踏み出しました。昨年にはワインを醸造するための設備を導入し、醸造家としても夢へのスタートを切りました。

理想の味を追い求めて

ワインの魅力は「全部違う」こと。醸造年も違えば産地も、使っているブドウの品種も違います。「ワイン造りは化学なんです。こういうワインを造るためにはどうしたらいいだろう、と仮説を立てて試行しています。でも、経験と勘も大切なんです。けどね」と、山崎さんは言います。

目標とする味に向かって何度も考え、試して、時に経験と勘を生かして近づいていく。「これがゴールじゃない。頑張らないと」と、山崎さんは目を輝かせながら語ってくれました。尽きることのない意欲は、本市産ワインの魅力を増やすす高めてくれることでしょう。

農地募集中!

市では、農地を貸してくれる人を探しています。農業には農地が不可欠です。新しく農業を始める人、農地を広げたい人を一緒に応援しませんか?

▶問い合わせ 農務畜産課 ☎0287(62)7032

※ワインはお酒です。飲酒は20歳になってから。